

# 特定非営利活動法人 小田原なぎさ会

## 2018年(平成30年)度事業報告

### 2018年(平成30年)度事業報告

#### 1. 基本方針と特記事項

- 小田原地域（小田原市・湯河原町・真鶴町・箱根町 等）で暮らす、精神の障害をはじめとした色々な障害を持つ皆さんが、自立した生活を営み社会復帰と社会参画を促進するための事業を行った。
- この4～5年で多くの試みを開始し、各々定着しつつある。本年度は「これらの取り組みの地道な継続と内容の充実に重点を置く」ことを基本方針とし各種活動を推進した。
- 作業所の運営では、前年度の方針と同様に「気軽に立ち寄れる居場所作り」と「本人の希望や特性を配慮した相談支援・就労支援」を活動の2本柱として取組んだ。特に、希望する利用者（以下、メンバーと記載）に対しては、就労に向けた支援も引続き強化している。本年度もメンバー3名を就労及び就労に向けてステップアップさせることができた。この数年、職員や役員からの後押しと共に、就労に向けたメンバー達の動きなどが良い刺激となり、メンバー自身の気づきや想いが高まってきている。メンバー入替が良い意味でのメンバー意識の活性化につながっている。
- 「改正障害者雇用促進法」の施行後、平成30年4月1日から法定雇用率の算定基礎に精神障害者が追加された。この法改正を実効あるものにすべく、この数年にわたり「精神障害者の就労支援の強化」を小田原市長へ強く訴えている。本年度も市長への要望書に本要望を盛り込み提出した。また、私たちにできそうなところからも具体的な就労支援につなげるべく、小田原箱根商工会議所とのコンタクトを開始した。
- 4年前（平成27年5月）から開始した『メンバー主体の自主活動：エコキャップ活動』は、想定を遥かに超える広がりのある活動に育ってきており、この2月からは酒匂小学校も応援団として加わってくださった。また、近隣地域のみなさんも積極的に本活動に参画していただけるように成長してきた。この活動を通して地域の教育機関との協働（コラボ活動）や各種団体・地域とのつながりを強化することができた。
- 来年度に向けた「看護系大学及び専門学校との新しい枠組みでの学生実習受入」などについて、各教育機関と共同して検討し、今後も協力・協働していくことに決定した。
- 職員の資質向上を目指して、従来の外部での研修参加に加え、内部での研修を開始した。本年度は、日々の活動基盤となるような内容を中心に職員・役員で勉強した。
  - ・外部研修：①精神保健福祉普及講演会 ①精神障がい者を支えるための地域づくり研修会 ②みんなねっとフォーラム2018 講演会 等
  - ・内部研修：①精神科病院見学（曾我病院） ②地活に関する基準を定める条例の勉強 ③小田原市地活事業実施要綱の勉強 ④「支援とは？」についてのディスカッション 等

## 2. 事業内容

- (1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業
  - (2) 精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業
  - (3) 関連機関・団体との連携に関する事業
- 上記、(1)～(3)の事業を推進するため、下記の各活動を行った。

尚、主な活動の実績を添付別紙1「平成30年度の主な活動計画と実績」に示す。

### \* 総会・理事会・月例会議・地域ネットワーク会議等の開催

- ① 認定特定非営利活動法人小田原なぎさ会の通常総会を5月23日に開催し、年度を通した各事業の取組み状況報告及び各議案の審議を行った。
- ② 理事会を開催し、当会の運営及び各事業について協議するなど法人運営と事業推進に努めた。(開催日:4/27、9/19、3/13) 3回
- ③ 月例会議を毎月定例開催し、作業所における日々の活動を中心として協議するなど施設運営事業を推進した。また普及啓発事業や連携事業などを含めた法人運営全般に関わる情報共有の強化を図った。  
(開催日:原則毎月第1金曜日) 12回
- ④ 地域ネットワーク会議を開催し、地域を巻き込んだ活動展開について協議するなど関係先との連携事業を推進した。
  - ・地域ネットワーク会議A 開催日:6/8、11/21 2回
  - ・地域ネットワーク会議B 開催日:7/18、2/20 2回

### (1) 精神障害者等の社会復帰を促進する為に必要な施設の設置、運営事業 (地域拠点活動 等)

○小田原なぎさ作業所(以下、作業所と記載)の運営

・内容:

- ① 日々の活動であるメンバーの各種生産活動(作業)について、その生産計画策定や作業指導を職員が連携して順調に推進した。また朝夕のミーティングや室内清掃などは極力メンバー主体で自主的に行うようにシステム化し運用した。その他の週間活動(習字教室・パソコン教室等)や、お誕生会・社会見学・バス旅行(前年度に引続き2回実施)などの各種イベントと共に、作業所周辺の歩道清掃やエコキャップ活動などの社会貢献活動の充実化にも注力した。これらの活動を通して、メンバーが自ら生活のリズムを整えることやソーシャルスキルを向上すること、そして社会参画の意識を向上することにつなげる支援を行った。

- ②メンバー1人ひとりの障害の程度や希望・特性を配慮しながら自立（自律）促進を推進した。このために個別支援計画を作成し、モニタリング・アセスメントなどを活用して、個々にきめ細かな支援を目指した。特に、メンバーとの個別面談を大切にし、「目標設定⇒振り返り⇒必要な目標修正」のループを廻して面談内容の充実を図り、この情報の職員間での共有にも力を入れた。
- ③昨年に引続き、障害に関する映画上映とその後の意見交換を行い、メンバー自身が自分を見つめなおす機会を設けた。
- ④畑体験では、「植付⇒管理⇒収穫⇒収穫祭」と一連の体験活動が定着してきた。また参加するメンバーも多くなってきており、大切な活動の1つに成長してきている。このイベントは、「土に触れることが何かメンバーにとって良いことを生み出すかもしれない」との思いから協力者の応援をいただき開始した活動である。自然とのふれあいや畑作業の大変さと喜びを体感し、自分たちで育てた野菜を使った料理を食べて、収穫の喜びをメンバーと共に関係者全員で分かち合う。この様な活動を通して、仲間同士の協力や協力者への感謝の姿勢など、人間関係構築に大切な感性を体験的に高めていきたい。
- ⑤エコキャップ活動は、「私たちも誰かを支援できる！」を合言葉にメンバーが主体になって推進する自主活動である。早いもので開始から4年が経ち、メンバー・職員・役員などの粘り強い活動に加え、周囲からの強力な応援のおかげをもって想定を遥かに超える広がりのある活動に育ってきた。今まで協働していただいている2教育機関（国際医療福祉大学学友会と酒匂中学校生徒会）に加えて、今年から酒匂小学校も応援団として参画していただくことになった。また、地域住民のみなさんからの応援も着実に増えてきている。このような活動を通して、色々な機関・団体など地域との連携やつながりを強化していくと共に、メンバー自身が自らの存在価値を再認識することや、その達成感ややりがいを感じたりすることで、自主性や社会参画意識の向上につなげていきたい。
- ⑥富士見地区防災訓練への参加に加え、前年度から開始した作業所独自の避難訓練を実施した。メンバーも避難の手順や仕方などが身についてきた。また、新たに「富士見地区津波避難体験と避難生活研修会」に参加した。このような地域に密着した活動を通して、地域交流を深めると共に、職員・メンバーの安全確保に対する感性と行動力を向上させていく。
- ⑦地域のボランティア活動の皆さんを積極的に受け入れた（現時点で3名）。
- ⑧悩みや相談ごとのあるメンバーのために、多くの相談の場を設けた。

等

- ・日時： 開所日数235日
- ・場所： 認定NPO法人小田原なぎさ会 作業所
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 小田原市、箱根町、湯河原町、真鶴町 等 利用者 32人
- ・支出額： 11,299,969円

## (2) 精神障害者等の社会復帰を促進する為の普及、啓発事業 (地域交流活動 等)

### ○地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行

#### ・内容：

- ①富士見地区防災訓練への参加や市展・新田公民館文化祭をはじめとした各種作品展への参加、及び地域の夏祭りやおだわら市民交流センターでのUMECO祭に参加などを積極的に推進し、地域との交流や普及啓発に注力した。
- ②恒例イベントになりつつある「なぎさ祭(第5回)」を開催し、地域交流と普及啓発に努めた。当初の職員主導型からメンバー主体型に企画・運営を変えてきた。メンバーも自主的参加姿勢が向上してきている。
- ③前述の『エコキャップ活動』では、今までの協働(コラボ活動)教育機関(酒匂中学校の生徒会、国際医療福祉大学の学友会)に新しく酒匂小学校が加わり、活動の輪が広げることができた。これらの活動を地道に推進し、更に地域との交流活動を発展させていく。
- ④3年目になる「クリスマス地域交流会」を開催した。地域のボランティアさんや住民さん・法人の会員との交流を深めることができた。
- ⑤南鴨宮地区3区総会に出席し、地域住民の皆さんに直接的に私たちの活動への理解や協働を投げかけた。また、エコキャップ活動への応援に感謝の意を示した。

等

- ・日時： 随時 (年10回以上)
- ・場所： 各々開催場所及び関係機関や地域全般
- ・従事者： 10名程度
- ・受益対象者： 利用者の保護者・小田原市を中心とする地域のみなさん約300人
- ・支出額： 466,360円

### ○リーフレットや機関紙・ホームページ等の活用

#### ・内容：

- ①正式ロゴマークの掲載と共に内容を改訂したリーフレット(2018年4月改訂版)を活用して、普及啓発を加速した。
  - ②機関紙を2回発行し(No. 24:4月1日、No. 25:10月1日)、広く普及啓発に活用した。
  - ③地域のご協力の下、富士見地区を中心に上記機関紙の配布(回覧)を継続的に推進し、地域交流や普及啓発に注力した。
  - ④リーフレットを昨年までに8機関に常設させていただくように増強してきたが、新たに1機関を追加し、合計9機関に常設させていただくことで、更に普及啓発事業を強化した。
  - ⑤情報発信のツールとしてとても効果的と考えるホームページを随時更新し、当法人の活動紹介と地域社会への理解や協働の投げかけをタイムリーに発信した。
- \*上記各種の発信源を活用して、新しい通所希望者や新規入会希望者及びボランティア活動希望者等へのつながりツールとしての活用実績が出ており、本年度

の新しい入会者が10名以上に上った。また、リーフレットを見て訪れる通所見学者も増えてきている。

等

- ・日時： 常時
- ・場所： 認定NPO法人小田原なぎさ会
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 機関紙発行部数1000部、HPビューワー件数1500件
- ・支出額： 上記“地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行“に含む

#### ○精神障害者の就労支援の拡大展開（例；企業とのコラボ活動探索）

- ・内容： 「改正障害者雇用促進法」の施行を踏まえ、私たちにできそうなところから具体的な就労支援につなげるべく、小田原箱根商工会議所とコンタクトを開始した。まずは、お互いの強みを活かして精神障害者の雇用促進に何が出来そうかの検討から着手した。
- ・日時： 随時
- ・場所： 地域全般
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 国内外の支援企業・団体 等
- ・支出額： 上記“地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行“に含む

#### ○行政への要望活動

- ・内容： 平成31年度に向けた要望書を小田原市長へ提出した（連携団体梅の会と連名）。当法人からは、この数年に渡り「精神障害者の就労支援の強化（雇用促進の取組強化と就労定着に向けた環境整備）」に的を絞って要望を提出してきたが、本年度は、時流を捉えて「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた実効ある取組み」及び「自治体区分を越えた包括的な障害者支援」も新たな要望として加え提出した。
- ・日時： 3月18日
- ・場所： 小田原市役所
- ・従事者： 数名程度
- ・受益対象者： 県・小田原市・医療機関・福祉機関 等
- ・支出額： 上記“地域イベントへの参加・法人イベントの企画及び実行“に含む

### (3) 関連機関・団体との連携に関する事業（地域ネットワーク活動 等）

#### ○地域ネットワーク会議（A・B）

- ・内容： 医療・福祉・行政などの機関や地域住民の方々に参加していただき、地域福祉の推進に向けたネットワーク会議を開催した。昨年度に引続き、今年度も下記2部構成とし、各々の会議構成者の特徴を活かしてネットワーク構築の更な

る強化と協働への手がかりを探索した。本年度は、会議参加団体から各々の取組みを紹介し合う場を設けるなどして、お互いに理解を深めることができた。

- ・日時：地域ネットワーク会議A 開催日：6/8、11/21 2回  
地域ネットワーク会議B 開催日：7/18、2/20 2回
- ・場所：認定NPO法人小田原なぎさ会
- ・従事者：10名程度
- ・受益対象者：ネットワーク会議参加団体  
医療・福祉・行政機関、地域住民のみなさん15名程度
- ・支出額：484,400円

#### ○関係団体や連携団体との交流活動

- ・内容：神奈川県精神障害者地域生活支援団体連合会（県精連）や小田原市障害者事業所連絡会（市事連）及び地域精神保健福祉連絡協議会・小田原地区精神保健福祉会「梅の会」などの関連団体や連携団体との協議やイベントに参画するなど、各団体との協力・交流・連携の強化を図った。今年度は県精連の中でも、私達と同様の地域活動支援センター（地活）で活動している方々との研修や会議に的を絞って参加し、つながりの強化を図った。
- ・日時：年10回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：数名程度
- ・受益対象者：県・市内の関係団体 5団体
- ・支出額：上記“地域ネットワーク会議（A・B）”に含む

#### ○教育機関との協働活動

- ・内容：国際医療福祉大学から今までの学生実習と位置づけを変えた「精神看護学臨地実習（実践の場に学生が身を置き、看護職者や支援者の立場で理解を深める。「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階へ実践能力を培う。結果として当方での実習日数及び人数が増える）」の申入れを受け、対応することに決定した。また、時を同じくして新たに県立平塚看護大学校からも同様の申入れを受け、これにも同様に対応することに決定した。更に、県立平塚看護大学校からは、上記とは別の枠組みでの学生実習「地域密着健康教育（地域での障害者の暮らしをより密着して学ぶという従来にはない新しい試み）」への協力依頼を受け、協働して挑戦していくことに決定した。次年度から活動を開始する。
- ・日時：年10回程度
- ・場所：神奈川県内、小田原市周辺
- ・従事者：数名程度
- ・受益対象者：県・市内の関係教育機関 2団体
- ・支出額：上記“地域ネットワーク会議（A・B）”に含む